

「力と愛と思慮分別」Ⅱテモテ1：3-12 12・5・27 悪魔の策略は、私達を過去のどうしようもない事を後悔させ意気消沈させるか、将来、未来への不安、恐れで苦しめる事である。その結果、私達が生きるべき今、現在に心を含める事を失わせてしまう。テモテは近づいてくる困難や危険に対する恐怖の為に励ましを必要としていた。本日の箇所はそのための御言葉である。パウロは投獄されてしまい、テモテは自分からいっただいどうなるのかと不安になった。万が一パウロが処刑されたら、少しずつ兆候が見られる迫害にどう対処すべきだろうか。そこでパウロは励ます。「あなたは、私たちの主をあかしすることや、私が主の囚人であることを恥じてはいけません。むしろ、神の力によって、福音のために私と苦しみをともしてください」：8。実は、この覚悟は、主が、主について来たい人に語られていたもの→「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架（主の為の苦しみ）を負い、そしてわたしについて来なさい」（マルコ8：34）。自分でどうすることもできない過去にとらわれるのは時間の浪費。未来について想像し心配し過ぎるのも間違っている。大切なのは、今自分が神により置かれている現在という時間を心を含めて生きる事。「一度に一歩ずつ」。過去にこだわって現在を無駄にしたり、未来の事に振り回されて現在を失ってはいけない。テモテは、臆病の霊に支配され、不信仰になり、身動きできなくなっていた。そこでパウロは語る。「神が私たちにくださったものは、おくびょうの霊ではなく、力と愛と慎みとの霊です」：7。もう一つ本当の問題点は、テモテも私達も、聖霊なる神（慰め主）が、私達の心に住み力と愛と思慮分別を与え続けて下さるという驚くべき恵みを忘れてしまっていることにある。霊的スランプは、神が私達の為に成就された御業（主の十字架と復活）と今も私たちの内で行っておられる御業（「私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです」ローマ5：5）と自分の人生で主がこれまで良くして下さった数々の恵みを忘れていた事に起因している。悩み、苦しみの時こそ、意識的に主の恵みを数え感謝を忘れないようにしたい。未来への恐れは、神の賜物を十分に生かせず、健全な考え方ができず、自分を正しくコントロールできない事が原因。心の中で将来の事が気になり出し、未来の状態を想像し、「いっただいどうなるのだろう」と不安になる。その想像が私達を追い込み始める。平静な心が乱され、憂鬱になり、スランプ状態に落ち込んで行く。しかし、主を信じる私たちの心には、聖霊が住んでおられることを思い起こし、将来についての見方（将来は神の御手にある）が根本的に変えられることを悟る。聖霊は、私達に全く新しい視点（すべてのことを神が支配しておられる。ただのマイナスではない）から苦悩、試練をとらえ、考え、受け止めることを可能にされる。私達には未来があり、重大な使命があり、迫害があり、困

難があり、敵対者がいる。また、自分の弱さも認めなければならない。しかし、そこで立ち止まるのではなく、神の絶大な恵みを思い起こす！試練、困難、自分の弱さはあるが、しかし、その中で全能の主が私と共におられ、聖霊は、困難に対処するための力と愛と思慮分別を与えて下さる。祈り求め続けよう。そうする時、神は、私達が、信仰上のバランスを回復し、困難、試練の状況を自分の狭い視点ではなく、広い神の視点で見、とらえることができるように助けて下さる。神が与えて下さる三つの霊的な宝。：7→

①「力」。私達は使命を持ち、また自分の足りなさ、弱さを持っている。ここに弱さを持った者への力がある。恐れや不安が完全になくなるわけではない。しかし「神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて、志を立てさせ、事を行わせてくださる」（ピリピ2：13）。この力を与えて下さる。忍耐する力、状況や環境がどうであろうと前進して行く力、逆境に押しつぶされずに耐え抜く力。臆病な私たちに、神からの使命を全うする勇気を与える神からの力。使徒23：11。②「愛」。未来への恐れ、臆病の心に支配されている時、自分に与えられた使命から逃げようとするところから守るものは本物の愛。命を奉げて愛して下さった主を自分も愛する故に主からの使命にとどまる愛。主からいただく愛で隣人を愛する愛。主からの愛をもって使命を全うする。「愛は寛容であり、愛は親切です。また人をねたみません。愛は自慢せず、高慢になりません。礼儀に反することをせず、自分の利益を求めず、怒らず、人のした悪を思わず、不正を喜ばずに真理を喜びます。すべてをがまんし、すべてを信じ、すべてを期待し、すべてを耐え忍びます」Ⅰコリ13：4-7。私達には愛がない。しかし、この愛を与えて下さいと神に祈り求める事ができる。③「慎み」原語の意：思慮分別、自制。御言葉のバランスの素晴らしさに感動させられる。神が力だけを与えられて、そこに愛と思慮分別がなければ、人は、力を乱用してしまう。力は、神と人を愛する事に、そして、思慮分別、識別力、自制をもって用いなければ害にもなる。愛の実践にも思慮分別、識別が伴う必要がある。相手の真に益にならないものまで与えてしまう愛もある。分を越えてやり過ぎることも、文句だけを言い、やらなさ過ぎることもある。神の分、自分の分、人の分、互いに協力する分（ガラ6：2と：5）をわきまえる思慮分別が必要である。私達には、健全な判断力、思慮分別、見分ける知恵が不足している。しかし、神に求め続けるなら与えて下さる。ヤコ1：5。心に住んでおられる聖霊も与えて下さる。マタ10：20。「私は祈っています。あなたがたの愛が真の知識とあらゆる識別力によって、いよいよ豊かになり、あなたがたが、真にすぐれたものを見分けることができるようになりますように」ピリピ1：9、10。祈り：神が与えられた現在という大切な時を、私達が、しっかり生きるために、御聖霊による力と愛と思慮分別を与え続けて下さい。